

# 第2号

発行：栃木県日中友好協会青年部  
河内郡上三川町大字  
ゆうきが丘12-6  
0285-52-1588

# 栃木県 日中友好協会 会報誌 知己

## 協会活動報告

### 福田富一県知事表敬訪問 (2024/10/8)



9月に実施した「栃木県青年友好使者訪問団」の浙江省訪問について、福田富一県知事に報告を行いました。知事は今後の日中友好交流を担う新たな世代へ期待の意を込め、協会の活動を激励しました。

### 中国語スピーチコンテスト栃木県大会 (10/19)



今年で第6回を迎えるスピーチコンテストは、例年通り大盛り上がり。高校生もたくさん来てくれました。審査委員長を務めた趙敏先生によると、出場者の中国語レベルが今までで最も高いコンテストだったそう。

### 第1回 ゴルフ親善コンペ (11/20)



宇都宮ガーデンゴルフクラブにて、栃木県日中友好協会主催のゴルフコンペを開催致しました。県内外からの参加者計12名によりゴルフを通じた日中友好を実現。ゴルフ愛好家の多い当協会にはピッタリですね。

### 令和6年度 第5回 理事会 (12/9)



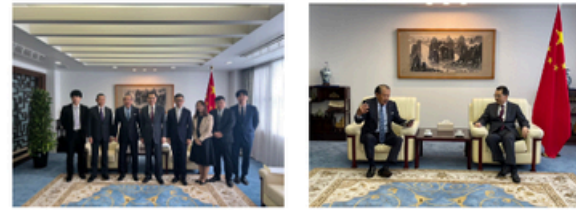
大島シズエ理事が行きつけの日本料理店「つむぎ庵」にて理事会を行い、今年を締めくくりました。これまでの活動を振り返り、今後は文化・スポーツ面での日中交流も盛り上げていこう！と来年度の方針決めを行いました。



こちらは栃木日中友好協会新設サイトのQRコードです。「知己」に載せきれない詳細な情報はこちらからご覧ください。お問合せや掲載依頼も随時受け付けております！

## 中国大使館へ表敬訪問&事業報告

10月30日午前、白石会長、瀧澤理事長、酒巻青年部長が中国大使館へ訪問。青少年交流の促進で若返った栃木県日中友好協会の近況について、呉江浩大使へ報告いたしました。栃木県青年友好使者訪問団による浙江省訪問、杭州第十三中学校による上三川中学校訪問、今年に入って新たに作られた栃木日中青年部の活動など、呉大使は熱心に聞いてくださいました。そして呉大使は「青少年を中心とした交流会を、これからは大使館でも定期的にやりましょう！」と青少年交流へ前向きな姿勢を示してくださいました。



## 青年部の歩み

### 日中言語交流 (浙江師範大学、電子科技大学)



11月に入り、浙江師範大学「漢語加油站」と電子科技大学日本語学科のみなさんと日中言語交流を計3回行いました。双方にとって得難い語学実践の機会となりました。

### 青年部 説明会&活動報告会 (2024/11/24)



県内外の学生や友好交流員の方、宇都宮大学の中国人留学生、さらに東京都日中友好協会の方など、たくさんの方にご参加いただき、青年部の活動の魅力をお伝えしました。

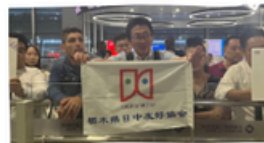
## 『日本と中国』12月号 栃木日中の活動を掲載



## 栃木県日中友好協会事務局 連絡先

FAX : 0285-52-1588  
E-mail : tochiginichu.jimukyoku@gmail.com

## 栃木県青年友好使者訪問団(2024/9/19~25)



名物ガイド、やなぎの柳さん。



浙江工業大学、学生同士のプレゼント交換。



優雅に南湖を遊覧。



日本栃木県青年友好使者訪華団



白石会長、凶鑑を寄贈。



桜庭さんと小柳さん、書道を披露。



衢州にて。布袋様の真似へ。

令和6年9月19日~25日の7日間、栃木県内の学生と社会人を引率し「栃木県青年友好使者訪問団」として浙江省を訪問した。引率者3名(白石会長、滝沢理事長、成田事務局長)、学生23名、社会人8名の計34名で構成された本訪問団は、団員の半数以上が中国語不可または初の訪中であった。訪中にあたり不安や緊張を感じた団員も少なかっただろう。しかし、引率者を除く31名を3つの班に分け、留学や仕事などですでに中国を経験している団員数名をそれぞれの班長・副班長とすることで、全員が安心して中国体験を楽しむことができた。各団員それぞれ健康状態にも特に問題はなく、訪中前に白石会長のおっしゃった「全員が『行ってよかったな』と思える旅にしよう!」という言葉はまさに現実のものとなった。

19日午後上海に降り立った私たち一行は、蒸し風呂のような暑さと肌に張り付くような湿気に驚きながらバスで嘉興市に向かった。車窓から見える中国の夜景、豪華なホテル、嘉興市外弁による盛大な歓迎会は私たちを大いに感動させ、みな一日目にして中国に魅せられてしまった。嘉興市人民対外友好協会でインターンをしている楊さんはちょうど名探偵コナン誕生の地鳥取県への留学を控えており、流暢な日本語で「日本に行くのすごく楽しみなんだ!」と伝えてくれた。20日朝9:00前にホテルをあとにし、バスで南湖遊覧へ。さすがは中国共産党の聖地、大きな構えの南湖革命記念館や南湖に浮かべられた紅い船の数々が私たちを迎える。記念館の解説員である張さんはなんと小さい頃から趣味で日本語を勉強していて、中国語の中に日本語を交えながら南湖について解説してくれた。

20日午後は浙江工業大学へ。大学へ到着後会議室に案内された一行は、拍手で出迎える工業大学の教師陣・日本語専攻の学生たちとご対面。浙江工業大学についての紹介や、杭州市の観光、グルメ、キャンパスライフなどについて工業大生が日本語でプレゼンテーションをしてくれた。私は中国語で彼らと同じことができるだろうか?彼らの日本語の習熟度と日本文化への理解度には毎度びっくりさせられる。三年生の郭くんはまだ

日本へ行ったことがないんだということを私よりも流暢な日本語で嘆いていた。なんということだ。

23日は午前中に浙江師範大学へ向かい、日本語専攻の学生たちと交流。座ると日中の学生同士が向い合わせになるドキドキ感満載の席が予め用意されていた。私の向かいに座っていた蒋くんは人当たりのいい穏やかな青年。「日本に行ったことある?」と軽くアイスブレイクすると「あ、明日から宇都宮大学に留学します」とベリーホットな返答が。留学準備で忙しい中朝早くから来てくれた蒋くんの情熱を称えたい。師範大生との交流を終えると、広大なキャンパスをバスで移動し学生食堂へ。さすがは金華の大学、食卓に目を向けると大皿に盛られた金華ハムが。師範大日本語学科の王紫薇先生は「薄切りの大根でハムを挟んで食べるともっと美味しいよ」と教えてくれた。師範大を離れる際、王先生はさらに「ぜひうちの日本語学科で先生になってほしい。いつでも歓迎するよ」と嬉しい言葉をかけてくださった。もう少し中国語が上手になったら行きます。

24日は衢州学院を見学し、小さなうずらの卵の殻にデザインを施したり、竹細工でQRコードを作ったりする学生の手先の器用さに驚いた。にっこり笑顔がチャーミングな李敏先生は衢州学院で日本語の授業を担当されており、長野県での長期留学経験で培われた日本語の知識を日々学生たちに教えている。学院に日本語学科がなくとも学生たちの日本語のレベルが高いのは元氣いっぱいな彼女の指導のおかげだろう。

今回の訪中を私視点で長々と振り返った。私も今回の旅を「行ってよかったな」と心の底から思う一人であるが、そこには「会えてよかったな」と思える人たちとの出会いに溢れていた。彼らそれぞれが日々日本を思い、それぞれの目標に向かって日本を学び続け精進している。翻って私たちはどうだろうか。私の大学では現在中国を専門的に学ぶ機会が一次的に減っているわけだが、彼らの友好的感情に応えるためにはそんな中でも中国を学ぼうとする姿勢を崩してはならないと思う。

青年部部长 酒巻 大雅



### 徐箏さん

こんにちは！徐箏（ジョウウ）と申します。浙江工業大学で日本語を専攻しています。来日経験を将来の仕事や進学で活かすため、最近まで日本に留学をしていました。

宇都宮大学でとても充実した留学生生活を体験できたので、私の住む浙江省が栃木県と友好関係を結んでいることを大変誇りに思います。



### 宋雨潤さん

こんにちは、宋雨潤（そうじゅん）と申します。四川省成都市にある電子科技大学で日本語学を専攻しています。今年8月まで約1年間宇大に交換留学していました。

日本留学中はたくさんの思い出をつくることができました。日本語の美しさを中国の学生たちに伝えられるようになるため、今も勉強を続けています。

# 浙江の知己より

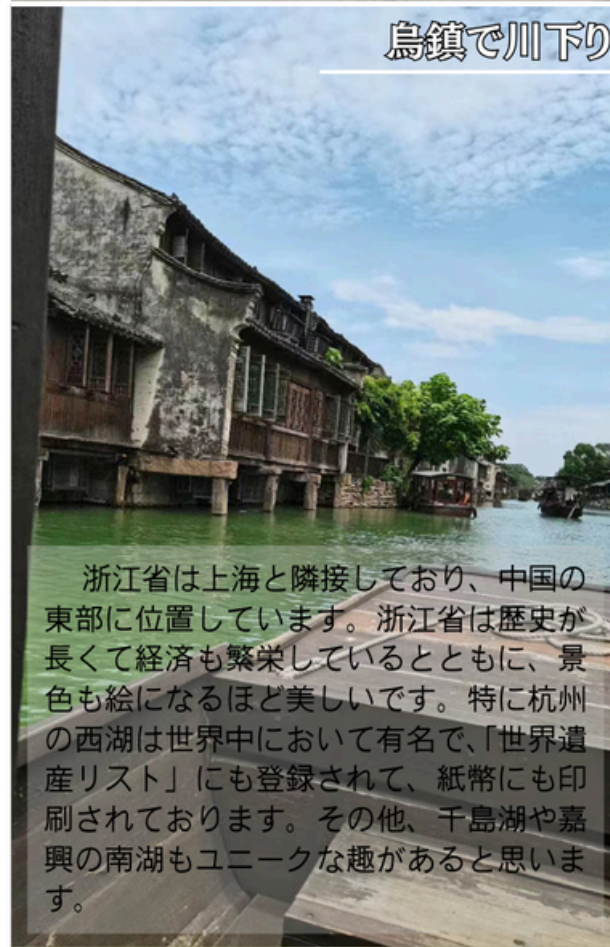
浙江に住む人、学ぶ人、働く人。  
我らが知己たちは中国で様々な活躍しています。  
彼らの語る中国を聞いて、現地に想いを馳せましょう。

## 郷—浙江省 (文:徐箏)

西湖畔から



烏鎮で川下り



夕暮れの工業大



浙江省は経済が繁栄しております。農業については、「魚米の里」と呼ばれ、緑茶・シルクなど農産品の生産量もかなりのものです。また、浙江省は発達したEコマースによって国際ビジネスを発展させています。その他、アジア運動会、世界インターネット大会などのイベントを行うことによって国際取引を促進させています。飲食については、浙江省は薄味を好み、果物も豊富です。浙江省は海に臨みながらも、内陸には山地や平原が多いです。そのため、杭州の龍井茶・ピワ、寧波の桃・海鮮、嘉興のちまき・ヒシなど、地域毎に名産が異なります。

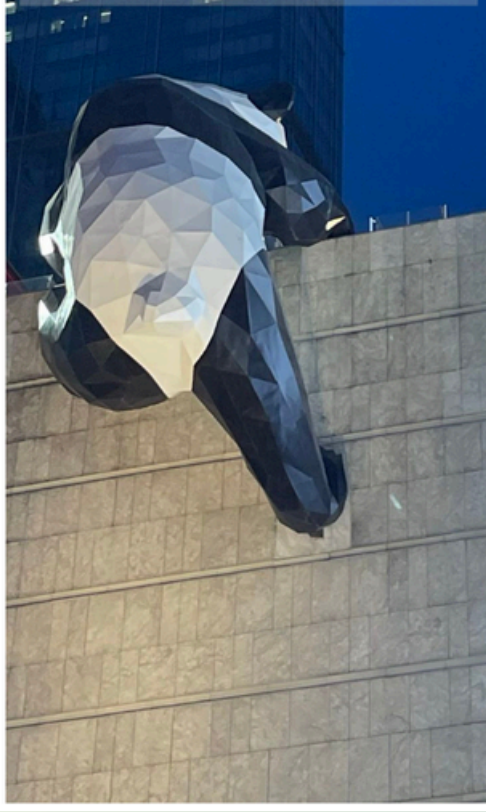


↑ 杭帮菜（ハンバンツァイ）  
浙江省杭州市由来の料理。

## 成都の楽しみ方

中国南西部にある四川省の省都・成都市は、パンダの故郷です。パンダがかわい顔をして笹を食べている様子を近くで見たいのであれば、成都市はベストな選択です。パンダのほか、四川省は

立派な世界遺産にも大変恵まれています。カラフルな九寨溝の渓谷、雪山と相まって青く輝く黄龍の池、壮麗な楽山大仏などは、一度見れば生涯絶対忘れることのない景色です。



(文:宋雨潤)

四川省といえば、四川料理を思い浮かべることでしょ。麻婆豆腐、回鍋肉のような辛いグルメが多いですが、蹄花（豚足スープ）、頼湯圓（もち米で作ったデザート）のように、辛いもの以外にも様々な味の料理があります。



→パンダの綿糖氷（ミエ小湯圓とチョコチップ入り）

いつ街に繰り出しても、成都は私たちを楽しませてくれます。昼は杜甫草堂で杜甫の詩を吟味し、武侯祠で孔明の活躍した三国時代にタイムスリップ。人民公園の竹椅子で温かい風を浴びながらお茶を楽しみ、のんびり午後を過ごす。夜には春熙路中心街を練り歩き、船で錦江を優雅に下る。皆さんも自分だけの四川の楽しみ方を探してみてください。

